小説『犯罪者の氣持〔『短編』第196期投稿版〕』

注意

- ■ **成人對象** — 二十歳以上の讀者を對象とします
- ■ **小説**（フィクション）— 實在の事柄とは關はりありません。又、描寫中の行爲を奬めるものではありません
- ■ **性描寫** — 性に關はる話題を含みます

作品情報

平成三十年十二月十五日　第一版・第二版發行

最終更新　平成三十一年一月五日

著・發行者　絲
letter@sinumade.net
http://kimitin.sinumade.net/

附録
『犯罪者の氣持』後書
http://kimitin.sinumade.net/2018/4-atogaki
『犯罪者の氣持〔『短編』第196期投稿版〕』HTML版
http://kimitin.sinumade.net/2018/4a
『犯罪者の氣持〔『短編』第196期投稿版〕』テキスト版
http://kimitin.sinumade.net/2018/4a-text

０：５７　「犯罪者の氣持」、なんて一括りにはしたくない。その人らはたまたま「犯罪者」になつただけで——下品な惡意から、人を突落して來た連中なんて、このサイトにはいくらでもゐるでしよ。ただ「犯罪」になつてゐないだけで。私は——ある時犯罪者と話した事がある。

０：５９　「俺には性慾が無いからね、何したつて無駄なんだ」。「ぢやあ、どうして强姦したの？」。「その女がむかついたから。できなかつたら、毆るなり何なりしてた」。それから、「こはくないの」と言はれた。

１：０４　私たちはカラオケにゐた。こんな話、人がゐるところぢやできないから。「すごく、近い」。數センチの間しかなかつた。「誘つてゐるの」。私は赤面した。體に震へが走つた。「何でこんなに近いの」。

１：０９　「だつて、こはがつてるつて、相手に思はせたくないから」。私は言つた。彼が、じろじろと私の顏を見た。「私は……確かに男が好きだけど、勿論强姦されたいわけぢやないよ」。「ぢやあ、俺が誘つたら」。

１：１０　私は、彼とホテルにゐるところを思ひ浮べ、それから好きな人を思ひ浮べた。「しないよ」。「ふうん、他の日は」。「あたしは、普通のセックスはしない人間だから」。「普通のセックスつて」。彼が笑つた。「いれるセックス」。

１：１１　煙草の臭ひのせゐで、頭が痛くて仕方が無かつた。「煙草、やめてくれる？」。私は立つた。「どこ行くの」。「トイレ」。廊下の空氣は、ひんやりして、新鮮に思へた。

１：１３　トイレから歸つて來ると、テーブルの上に、くしやくしやの千圓札が置かれてゐた。「どうしたの、これ」。「俺、歸るよ」。「どうして」。

１：１３　「今日は、ありがと。樂しかつたよ」。彼とはそれきりだつた。犯罪者になつた人との會話は、呆氣無かつた。

２：１０　皆セックスの事ばかり考へてるのね。彼がセックスできないから帰つたと思つてるのね。分つてるくせに。普遍性。

２：１１　ほら、〝犯罪者と話した女〟の言葉ここに散る、犯罪心理分析者の皆様、御苦労様です。ああ、犯罪者ども。

２：１１　誰かが私を、犯罪者と呼んだ。

２：１１　犯罪者は言つた。「おやすみ」

〈了〉